

災害事例

事故の型	墜落、転落	起因物	地山、岩石
発生状況	伐採現場において、被災者がチェーンソーを使用して全長20m・胸高直径40cmの杉を伐倒したところ、伐倒した杉が近くの切株に当たり、退避していた被災者の方に跳ね、被災者は跳ねた伐倒木の根元部と近くあった立木との間に挟まれた。		
原因	<p>伐倒方向を斜め上方向としたこと。</p> <p>伐倒方向を確実にするために専用の機械等で牽引しなかったこと。</p> <p>退避場所を立木の後方としなかったこと。</p>	対策	<p>傾斜地における立木の伐倒方向については、伐倒する立木の状況、隣接木の状況、地形、伐倒後の作業方法等を考慮し、横方向または斜め下方向等、最も安全に倒せる方向を選定すること。</p> <p>退避場所については、安全が確認される距離を基本とし、立木があればその後方とすること。</p> <p>作業開始前には危険予知活動(KY活動)を実施し、さらに「作業がどれくらい危険か(リスク)をランクづけし事前に評価(アセスメント)する」リスクアセスメントを導入すること。</p>



